

中央公論 1976年4月号

筆者と編集部への手紙

日本の特殊性の研究

内免 久和

佐藤誠三郎・公文俊平・村上泰亮三氏の「日本近代化分析—イエ社会の近代化」を拝読した。「幕末日本の中」にすでに整えられていた「近代化のため」の三条件として、「(一)実質的な全国統合、(二)そのような徳川統合の正統性の破綻、(三)各種イエ型組織における経営者の蓄積」を挙げられる。(二)を重視する点にいわゆる「近代化論」と相通する性格があると思う。

同じ三月号所収の「平衛と成熟の世紀へ」で小島慶三氏は、わが国の左翼史家の近代化論に対する態度を批判しているが、私も同感である。また(一)を重視する点も、注目に値しよう。ゴロニンが『日本幽囚記』で述べているような日本の特殊性が、遠山茂樹氏の言う絶対主義的民族独立という、一見矛盾した説をよく説明しうるのではないかと。

- 1 締切 毎月二十三日
- 2 宛先 中央公論編集部「筆者と編集部」の手紙係
- 3 字数 七百字以内
- 4 原稿に氏名・年齢・職業・住所を明記
- 5 採用の方には料料三千元をお送りします

いか。オルテガが『大衆の反逆』で述べたように、血族・言語が多様だから統一のための努力として国家が虚構的に存立できるが、日本の場合はこのような必要はなかった。このゆえに、ファッション化過程においても、ナチズムの「民族協同体」のような公的的政治的觀念は日本は必要としなかったし、また幕末においても絶対主義権力による民族統一を、無為にして「なした」と思う。

絶対主義民族統一、市民革命民族独立という西洋史の尺度では計りきれぬ日本の特殊性を追求しなければ、特殊日本的「近代」化は理解できない。(京都府・大学院生・27歳)

故岡首相の魅力

原田 喜統

三月号の特集「流動するアジアと日本」のうち、竹内実氏の「周恩来の遺産と革命第二世代」と、貝塚茂樹、陳

どと呼ばれる権一雄に、最近とくにひきつけられているからだ。

後藤明生氏が「わが祭り」の不思議な笑いに魅力をおぼえられたことや、権さんの魅力にひかれ、時間の許す限りその酒席に出席されたことなど、興味をゆり動かされた。

ところで権一雄の死去当時、新潟のある知人が、「故人は約二十回くらい新潟入りしていますが、毎回、新潟駅あるいは新潟空港から霞(坂口安吾の異名)へ直行されるのでした。早朝であろうと深夜であろうとおかまひなし」と語っていた新聞記事を読み、強く感動させられていた。

それだけに、「われ天涯に一人」のくだりは、「無頼」と他人に分類命名された権一雄の胸中に思いをいたし、ひたすらに心のうずくのを覚えた。「わが祭り」や「火宅の人」といった作品も、賑やかな酒宴や坂口安吾の碑にかけつける姿もみな、ひっきりやう「われ天涯に一人」の人の「天然の旅情」という清楚にして強烈な真心が生地のまま表出されたものと感じないではおられない。

同時に、そうした激しい感動や美しさを奏でているものに対するもう一つのもの、いわば指標として、後藤氏の

舜臣、三田村泰助氏の座談会「人間周恩来の魅力」を語った。周恩来死して約二月、地下に眠る岡首相の温顔が浮かぶ。かつて、ソビエトのスターリンが死したとき、私は小学生だったが、学校で新聞部員をしており、教室の掲示黒板に「世界の巨星落ちる」と題して小文を書いたら、「これは誰が書いたか」と先生が色をなしたのを思い出す。

当時と現代とは、共産主義に対する考え方も変わってきているし、私の認識の度合も格段のステップを上っていると自認している。人間の魅力、幅、深さを考えると、周恩来はスターリンの比ではなからうと思う。ナンバー・スリーの地位に甘んじた「忍」、恐妻家であった庶民性、繊細な気配りを持った智力、死後、灰にしてばらまいてくれと言いついた合理主義、どれをとっても常人を超えた魅力をもっているのではあるまいか。

私は、だからといって超人的な指導者をもった共産主義を讃美するものではない。むしろこうした達人ともいえるリーダーが一人地上から消えたというところ、共産主義大中国に再び現われることのないであろう将来に、淋しさを覚えるものである。イデオロギー

「……つまり、『われ天涯に一人』ではなかった……」と述べておられる点を玩味しなければならぬとつくづく思った。それぞれに人間存在の根源に触れているものと考えられるからである。不消化な点や早のみこみのところも多いうように反省しているが、私なりに極めて感銘深く読ませていただいた。(新潟県・教育公務員・50歳)

「文章読本」に関して

林田 栄三

本誌二月号本欄に寄せられた「身近な文章読本」という小林さんの御意見に対して、「言申し述べたい。

第一に、「文章読本」という表題のもつ意味について誤解がある。すなわち「文章読本」という言葉は、ここでは文章入門あるいは文章教科書といった広く深い意味あいをもって用いられているのに対して、小林さんは手紙・日記などの日常の実用的作文範例あるいは読み方教科書といった、一面的な解釈をされているようである。

第二に、絵を描いたり楽器を演奏したりすることも、芸術的観点に立てば文章創作同様に困難である。その証拠に、芸術性の高い絵を描いたり、同じ

と人格とは厳密に区別されるべきである。卓越した人格は尊敬されるべきである。その一例は、卓球大会に参加したパレスチナ選手団入場するとき、彼が真っ先に立ち上がった拍手した、それに続いて上方の拍手がわき起ったという。演技といえは、それまでだが、常人の持ちえない感覚というか、人間性こそ岡首相のすべてであろうと思う。岡首相の安らげき永眠を願う。(愛知県・公務員・39歳)

中嶋氏のとらえ方

西畑 造

『中央公論』三月号、中嶋嶺雄氏の『新太平洋ドクトリン』と中ソ冷戦を興味深く読んだ。米中ソの壮大なパワーゲームを、うまくまとめられた論文だと思ふ。結論として述べられた「中ソ対立を利用し得る度合は、アメリカよりはるかに小さいことになる。それだけ、中ソ双方に対して弱い立場にあるわけであって、こと対中対ソ外交にかなしては、いかなる点からしてもアメリカに追随し得ないことが明らか」であるとの指摘は、日本の外交当局者が十分認識すべきことである。中嶋氏の考えの如く中ソ対立は、

く楽器を演奏したりすることは誰にでもできる芸当ではないし、ほんの子供の描いた絵がどんなにうまく描かれていようと芸術作品とは言われない。

第三に、「隅々の文章と数学の公式の文章とにだけ差異があるかわからない。同じくらい興味乾燥に思える」と述べておられるが、数学の公式の説明文は論理的であれば事足りるのに反し、小説などの文章は単なる説明文ではない。無論、小説などの文章と言えども論理的でなければならぬが、単なる説明文や記録文などと異なり論理性以上のものが要求される。最後に、御承知の方も多いと思われるが、丸谷才一氏が歴史的かな使用を固執される理由は、歴史的かな使用の論理性にあるのであって、氏の良著『日本語のために』(新潮社)などに詳しいので御一読をお薦めする。(愛知県・大学院生・26歳)

お願い

毎々本誌へのご投稿有難く御礼申し上げます。投稿の数も多く、また事務錯綜のため、お原稿は1ヶ月返却致しかねます。つきましては、ご投稿に際し、お手許にコピーをとられますようお願い申し上げます。編集部

筆者と編集部への手紙

沈静化するとは考えられない。中国に関しては、周恩来首相の死去後リーダーシップを取ると思われた鄧小平氏の手首昇格が予想されたが、対外的にあまり知られていない華国鋒氏が、首相代行となり、鄧小平氏をはじめとする実務派路線が後退を余儀なくされる見通しも生まれてきた。華氏の首相代行は暫定的なものかもしれないが、左派の路線が強まることもあり得よう。中嶋氏の述べておられるように「工業体系、国民経済体系の建設という方向は、今日の中国にとって、もはや逆転し得ない社会的・国家的要請」であるかどうかは、今後事態の推移を見守るほかないであろう。ともあれ中国内部で、路線の対立が激化しているのではないかと思われる。

権氏にひかれて

土田 祥三

後藤明生氏の「権流無頼派への挽歌」を真先に読んだ。八方破れの人生を送ったとか、最後の無頼派の文士な